

2026年6月16日発行

事務所 武石地域総合センター内
TEL:0268-85-2511
<https://www.s-takeshi.jp>
印刷 中澤印刷株式会社



御柱大祭の御神木が決まる

～令和10年御柱大祭に向けて準備開始～

4月26日(日)、令和10年(戊申歳)の子檀嶺神社御柱大祭に建立する御神木を見定める「本見立」が行われました。

場所は、武石上本入巣栗キャンプ場西の武石財産区有林で、「本見立」には子檀嶺神社宮司、御柱世話人、氏子総代会役員、小沢根祭典委員、財産区関係者、など10人が参加、候補の木を見上げながら協議が行われ、御柱世話人の「本木で異議無し」との提言により御神木が決まりました。御神木となった木には、「御柱大祭御神木」の木札が取り付けられました。

決まった木は^{もみ}縦で、高さ約25m、幹回り約2m、樹齢約100年の自生木です。

今回の御神木の長さは45尺(約15m)と決められていて、4段階ある長さの中で2番目の長さになるそうです。

御神木の決定により、木の根元の状況や周辺の地形、近接する道路の確認など、さっそく今後の行事に向けた準備が始まりました。

今後の行事としては、令和9年春に「注^{しめほ}連り祭」、同年秋には「斧入れ・山出し祭」が行われ、令和10年4月の御柱大祭の挙行となります。



お知らせ

親子で楽しく ぼうさい教室《参加無料》

日時 6月27日(土) 9:30～11:30
会場 武石地域総合センターコミュニティホール
定員 小学校6年生までのお子さんとその保護者
30組60名
主催 上田地区更生保護女性会
お問い合わせ 市民サービス課 0268(85)2068

仮装大賞 第10回記念大会

日時 9月20日(日) 13:00開演
会場 武石地域総合センターコミュニティホール
主催 武石風土つなぎ隊

公式ホームページはこちら▶

6月30日まで出場者大募集!



住みよい武石をつくる会 2026年度 定期総会開催

住みよい武石をつくる会の2026年度定期総会を、4月23日(木)午後7時から武石地域総合センターコミュニティホールで開催しました。

開会あたり児玉卓文会長は、「つくる会は今年度から10年目の活動に入ります。地域の諸問題を解決しようと会が発足しましたが、発足当時から少子高齢化の状況はほとんど変わっておらず、なかなか10年たっても解決できない問題があります。それぞれの部会で10年目の活動計画を立てていただきました。そうした計画が実行に移され、所定の目的が達成できますよう皆さまのご協力をお願いします」とあいさつしました。

来賓の春原茂武石地域自治センター長からは、「上田市は今年度から『第3次上田市総合計画』がスタートしました。急速な人口減少や多様化する課題に対し、将来に渡って安心して暮らし続けることができる町づくりを推進してまいります。

また、市で唯一の過疎地域指定である武石地域の『持続的発展計画』についても総合計画と同様に取り組んでまいります。今後の武石地域の発展のため、我々行政とともに歩んでいければと考えますので、引き続きのご支援、ご協力をお願いいたします」とあいさつがありました。

議事では、2025年度事業報告、決算報告、2026年度事業計画、予算などが審議されました。



(1) 2025年度事業報告・決算

① 2025年度事業報告

2025年度は、つくる会の自主事業、他団体との協業・協力、調査や研修会の実施など、次のような事業が実施されました。

- ・ 巢栗溪谷森林浴トレッキング
- ・ 武石地域環境整備活動(7回)
武石公園、ともしび公園、巢栗溪谷、他
- ・ 武石八景、武石十景案内看板設置(2箇所)
- ・ 武石夏祭り出店、武石地域交流秋祭りそば販売
- ・ お弁当販売(7回)
- ・ 健康・福祉勉強会(5回)
地域医療・福祉、認知症・感染症対策、他
- ・ 巢栗溪谷森林浴ウォーキング
- ・ 自然を体験「ネーチャーゲーム」
- ・ 命と平和学習、戦争を語り継ぐ会
- ・ わらぞうり作り
- ・ 武石っ子まんなか交流会
御柱おねりと伝承遊び
- ・ 広報紙発行(6回)、エリアトーク運営

② 2025年度一般会計の決算概要

● 収支概要	
収入総額	3,700,782円
支出総額	3,321,568円
差 引	379,214円
● 収 入 (主なもの)	
市の交付金	3,059,000円
事業収入	246,660円
前年度繰越金	386,601円
● 支 出 (主なもの)	
役員、部会員、事務局員報酬	1,623,320円
講師、専門家等謝礼	104,850円
消耗品費	222,777円
広報印刷製本費	572,100円
武石八景看板設置	258,000円
販売事業食材料費	152,640円
備品購入費	113,850円

③ 2025年度情報伝達無線システム (エリアトーク) 特別会計概要

加入戸数は782戸(加入率69.3%)、定時放送
でのお知らせは975回行いました。

● 収支概要

収入総額	3,596,974円
支出総額	3,493,944円
差引	103,030円

・収入(主なもの)	
加入者負担金	3,516,000円
有料放送手数料	28,200円
前年度繰越金	38,753円
・支出(主なもの)	
アナウンサー賃金	999,536円
中継局電話料、携帯電話料	295,638円
基地局・中継局保険料	53,660円
中継局修繕料	74,800円
基金積立金	2,000,000円

(2) 2026年度事業計画・予算

① 武石まちづくり計画と9年間の事業を検証し
ながら、次のような事業を行っていきます
(他団体と共催、後援を含む)。

- ・ 巢栗を中心にトレッキング、遊歩道整備
- ・ 武石音頭・武石小唄の継承活動
- ・ 武石の縁が輪の運営支援
- ・ 農産物の栽培・直売、地元食材活用の弁当販売
- ・ 家族農業体験会
- ・ 武石八景名所の周知と八景を巡るイベント計画
- ・ 武石地域内の名所・旧跡の整備、清掃
- ・ 地域防災対策の検討と人材育成
- ・ 体力維持増進イベント開催
- ・ 健康・福祉勉強会
- ・ 子どもたちの自然や伝統文化の体験会
- ・ 子どもと大人のふれあい交流会
- ・ 広報紙発行、ホームページ更新など広報活動
- ・ エリアトークの管理運営

② 一般会計の予算

- ・ 収入・支出 3,625千円
- ・ 収入は市交付金3,050千円、事業収入195千円、他です。
- ・ 支出の内容と規模は前年度とほぼ同様ですが、一部の事業変更に合わせて調整をしました。

③ エリアトーク事業については、通常の管理運営事業をおこないます。

● エリアトーク特別会計予算

収入・支出	3,570千円
・ 収入は、加入者負担金 3,428千円、手数料 34千円、前年度繰越金 103千円、他。	
・ 支出は、運営費 1,464千円、積立金 2,000千円、などとなっています。	

総会終了後、ふれあい交流、産業経済、健康福祉体育、子育て教育文化の各部会を開き、それぞれの新年度事業計画の実施に向けた協議をおこないました。

(3) 委員選出基準の見直しについて

- ① つくる会の委員は、正副自治会長、武石地域協議会委員、各種団体、自治会選出者、会長が推薦する者、及び公募者により構成され、各組織、団体等からの選出人数は委員選出基準により定めています(規約第8条)
- ② 人口減少にともなう自治会役員の負担軽減、地域協議会の定員減、及び会の活動に意欲の

ある方の公募・推薦者の選任推進のため、委員選出基準の一部を変更します。
(変更基準は、令和9年度より適用する)

③ つくる会では、人口減少が進む中で、これからの組織や活動をどのようにしていくか今後も検討を進めてまいります。

変更内容

1. 自治会長委員は、各自治会から正副自治会長どちらか1人とする。(全18人)
2. 武石地域協議会委員12人(定員減のため)
3. 各自治会からの選出者(推薦)は、上本入地区では7自治会で1人とする。
4. 公募・会長推薦委員は、10人程度、武石地域内、または在勤・在職者とする。

家族農業体験会とジャガイモの植付け



家族農業体験会

4月12日(日)、産業経済部会は武石下本入の畑で家族農業体験会とジャガイモの植付け作業を行いました。

農業体験には、子どもさん6人を含む3家族が

参加、各家族に1本ずつ用意された畝に約20個の種芋を子どもさんと一緒に植付けをしました。

約1アールの畑では部会員の手により施肥と約10kgのダンシャクの植付けを行い、1時間程で作業を終えました。

今後は芽かき、草取り、土寄せなど、7月末の収穫に向けて作業を行います。収穫したジャガイモは、夏祭りにジャガバターとして提供する予定です。



ジャガイモの植付け

武石八景看板設置 富沢の晴嵐

自然生活環境部会は、武石八景の案内看板「富沢の晴嵐」を武石公園遊歩道脇に設置しました。

松にのみ音を残していづちより 風ふきこゆる^{ひと}むらの里

晴れわたる山は、松の青々とした気に包まれ、どこからか吹く風が松林にのみ音をたてて小さな村里を越えていくよ

(注)「富沢」は、武石公園北側の眼下に見える県道をはさんだ集落の辺りです。



武石八景 富沢の晴嵐

今回の設置により武石八景(8枚)および武石十景(追加2枚)の計10枚の案内看板設置事業が完了しました。

親子で楽しむ林業体験と里山歩き

(株)KIKORI

5月23日(土)、林業会社の(株)KIKORIは、“親子で楽しむ林業体験と里山歩き”を開催、武石上本入の会場には7家族、子どもさん10人を含む約30人が集まりました。

直径50cm、高さ20m以上ある杉と栗の伐採見学では、木がゆっくりと目印の方向に倒れ、地面に当たる衝撃音と迫りに驚きの声。また、2種類の林業機械(「プロセッサ」)と「グラップル」を操縦して、倒した木の枝払い、切断、および切断した木材を揃えて積上げるまでの一連の作業を見学、手際の良い作業に参加者から拍手が起きました。

林業機械の乗車体験では、子どもさんが交互に



運転席に座り、操縦気分を味わいながら親御さんのスマホカメラに収まっていた。

木の種類当てクイズは、並べられた9種類の木材の色や硬さ、匂いなどから樹種名を当てるもので、木の多彩な性質と判別の難しさを体感しました。

林業体験の後は、近くの“^{ふうてんさま}風天様”を見に山登り、お昼には振舞われた豚汁でお弁当を食べるなど、参加者は深緑の自然に囲まれて過ごす時間を満喫しました。

(株)KIKORIでは林業を身近に感じてほしいと、親子で楽しむ林業体験イベントを毎年開催していて、社長の若林幸雄さんは、「今後も続けていきたい」と話していました。



樹種当てクイズ



乗車体験

岳の湯温泉 雲溪荘 48年間の営業を終える

3月31日(火)、岳の湯温泉雲溪荘の閉館式が行われました。会場となった大広間には、市議会議員、振興事業団や武石地域自治センターの関係者、地元の団体関係者など約25人が集まり、48年間のあゆみを振り返りつつ、名残り惜しみました。

歴代の支配人として出席した荻原和雄さんと滝沢詳治さんの挨拶があり、当時の経営状況や思い出となったエピソードなどを話し、閉館となる事への思いやお世話になった方々への感謝を述べました。

大広間の床の間には、宴会を催したお客さんが飾ってくれたという張り紙と花束が残され、閉館式を飾っていました。

上田市内から月に1回は訪れるという二人組の女性は、「今日で無くなるのはもったいなくて残念です」、「うつくしの湯よりもここの方が空いていてゆったりとお湯に入れてよかった」と各々閉館を惜しんでいました。



閉館式



荻原さん挨拶



■ 岳の湯温泉の歴史 ■

岳の湯は江戸時代初期に発見され、元禄時代からは沸かし湯として客を受け入れるようになり、農閑期の湯治場として、また村民の憩いの場として続いてきました。昭和初期には近隣からも多くの客が訪れ、当時美ヶ原登山の唯一の登山口(小沢根口)であったことから、登山の宿としても賑わいました。

岳の湯への道は、人がやっと通れるほどの川沿いの山道でした。その後林道が整備されましたが、昭和34年の伊勢湾台風により林道が寸断され、岳の湯は昭和36年に廃業しました。

■ 雲溪荘の開業とあゆみ ■

昭和48年12月、武石村と伊藤忠商事(株)は、小沢根獅子ヶ城地籍一帯の大規模な別荘地開発に着手しました。これを機に、岳の湯の再開発の機運が高まり、武石村は旧地に休養宿泊施設の創設

を決定し、昭和51年8月、建設に着手しました。施設名称は公募により「雲溪荘」と命名、昭和52年5月1日、「豊かな自然環境の中で、地域住民に保健休養の場を提供すること」を目的とした「岳の湯温泉雲溪荘」が開業しました。当初30人程度の収容人数でしたが、同年10月には増築工事に着手、客室増設の他に娯楽室、食堂、配膳室などを設け、収容人数を92人へと規模が拡大されました。

平成に入って利用者は増え、6年度には県内外の観光客や地域の会合などによって、年間利用者16.9千人を記録しました。しかし、時代の変遷により宿泊ニーズが変化して利用者は徐々に減少、平成22年度には8.7千人まで低下、さらに令和元年度の台風19号災害、2年度の新型コロナウイルス感染症の影響などで、3年度の利用者は2.8千人まで減少しました。

この間、「雲溪荘40周年記念プラン」(平成29年)、「使って残そう雲溪荘!!」キャンペーン(令和2年、令和3年)でお得な宿泊プランや日帰りプランなどを提供して誘客促進を図りましたが、十分な成果が得られませんでした。

市から雲溪荘の在り方について協議検討の諮問を受けた武石地域協議会は、他の団体や有識者を含めて構成する「温泉施設在り方検討部会」の審議結果を意見書として提出し、市は令和7年度末をもって雲溪荘の営業終了を決定しました。(令和8年度以降の温泉施設の利活用方法は未定です)

(参考資料)・武石村誌『自然と風土』、『現代』
・『地域自治センターだより 武石』

第37回 たけし歴史さんぽ道

堰（農業用水）と開発Ⅱ

郷土史家 児玉卓文

南北朝時代の初めころ、丸子から武石へそして諏訪への道は、腰越から依田川の段丘縁を進んで「あさつゆ」の辺りで段丘の上面に乗り、小屋坂峠への道を分けて「全芳院前身の寺」の前を通過して、樽沢山（鳥屋城の山）の裾を迂回して依田川河原に降り、プールの脇あたりで段丘崖を斜めに上り、丸子の牛話から武石の太平で「大日如来と妙見尊を安置する妙見寺前身の御堂」の脇を通り、小山の西麓をたどって棟坂へ出たと推察されます。左の五日町には稲荷神社が、武石川の向こうの半台には「信廣寺前身の御堂」が、対岸の長和町六反田にも小堂が見えたとされます。

「牛石」の伝説には、葎と笹を焼いて沖の平を農地に開いたとありますが、水が無ければ農地になりません。沖の開発とは原野を焼き払い、堰を引いて田用水に、道を造って道沿いに生活用水を確保して集落を造ることでした。

沖の堰は、清水橋少し上流の武石川が最も狭くなった、上堰・大堰の取り入れ口に比べてかなり険しい地形で取水し、江戸窄で段丘面に載せて石原田・五輪前と道路に沿わせて南下し、権兵衛川を木樋で越え、塩地口で道は鉤の手に曲がり、堰は田用水と生活用水に分かれ、荒宿の台地を下ったところで道沿いを外れて二本に分岐させ、田を潤して段丘崖から依田川に落しました。道は荒宿の段丘下から洞川に添わせて北に向かい、末端近くで川沿いを外して真っ直ぐ段丘を堀割り、依田川氾濫原で旧道につなげました。

「牛石」はこの工事中に段丘近くで見つかり、新たな村の入口に据えて「塞の神」の役割を付し、開発の神の説話を創って祀ったと想像されます。「塞の神」とは、村の出入り口などで外からの悪霊や疫病を防ぐ道祖神の一種です。村境に注連縄や大草鞋などを飾り道を遮断する「道切り」も同じ願いを込めています。鳥屋地区の出入り口では今も行われています。

特徴的なのは、塩地口の鉤の手と、そこから小山に伸びる道です。道の先の田んぼについて、『慶安四年（1651）の検地帳』には次のようにあります。

小山
是ハ屋敷分^二御年貢なし
一、上田耆反八畝三步 祢宜 左京
此分米弍石七斗一升五合

「小山」は名所^{なごころ}といって小範囲の土地を示し、これは小山東の沖公民館から北の細長い山裾を指します。そこが元屋敷地で、年貢が免除されていることを記しています。この屋敷の主が、笹焼社縁起にある「武石村開拓ノ祖笹八木庄司」と思われます。庄司様のお屋敷への入口ですので「しょうじぐち」、転じて「しおじぐち（塩地口）」となったと考えられます。



塩地口庄司屋敷への小路

鉤の手の道は、城下町の食い違いと同じ防御方法です。さらに小山は山裾まで含めてまるまる沖分で、山頂には小規模ですが何段もの段曲輪や横堀を備えた山城が構えられています。荒宿は「新しい宿（あらしゆく）」で地割して庶民を移したと考えられます。そして、五日町が持っていた月に三回の市の機能も、やがてここに移されたと思われれます。丸屋の坂の道祖神横にある「市神」の石柱は江戸時代のもですが、かつての記憶を遺したものだと思われれます。

誰が、この開発をしたのでしょうか。堀之内の館の主は、南北朝期に武石に入った武田流大井氏に館と上武石を追われたと思われれます。開発者は、その追われた千葉氏流武石氏とその直属の人々と考えられます。

「神社移転願書」（『公文書館蔵武石村行政文書』）によれば、彼らは元亀年中（1570～73）に、今まで笹焼庄司の子孫のみで祀ってきた笹焼神を族人（直属の子孫）の氏神とし社殿を新築しています。社殿はこの時かあるいは以前かに、現在の諏訪社の地に坐したと思われれます。

戦国期のこの期になって、末裔と族人があらためて、開拓の租神を氏神として祀り結束を図らなければならなかったのは、何故でしょう。一族に再び異変が起きたか、起きようとしていたように思われれます。